

06春闘中間総評会を主催



N0. 2466
2006年6月12日
発行責任者 太田博二
編集責任者 五十嵐敬

支部・分会代表者を招集

五月二三日、地方本部は今06春闘の取り組みとその総括を図るために表題の集会を開催した。今春闘はJRで言えば貨物会社は6年連続のエアゼロ、東日本会社は600円と結果は敗北であったが、しかし各職場での創意工夫した取り組みが報告され、来年の春闘勝利に結びつける意思統一がはかられた。

太田委員長挨拶

主催者を代表して冒頭挨拶に立つた太田地本執行委員長は、地本独自の総行動は今回で三回目の取組となったが年々内容が良くなっていくのが実感できている。今後も継続を、一〇四七名問題では裁判も準備している。形態については六月一日に議論される。出向配転問題と和解決業に入っているが、必ずしも問題も含めてはばつつかと中労委から提案されており一括和解の方向で動き出している等の挨拶を述べた。

経験交流報告

また今集会には国労東海本部、新幹線地本より望月委員長を招き「JR東海における労働条件につ

いて」という題目で「高齢者雇用の労働条件」新人事資金制度」についてこれまでの取組と成果、課題の報告がされた。その中で望月委員長は「国労東海は02年3月8日にJR東海会社と各争議について一括和解をした。金銭謝罪は全くない。しかし将来組合員に差別をさせないために他労組と同じライオンに立つことが大切として決断した」と和解の経過を述べると共に「職場総点検運動」「反合理化の運動である」と位置付けていると強調した。



支部・分会から

地方本部からは大沼書記長より「仕事総点検運動」と統一行動の取り組みを中心とした総括が行われ、職場要求を提出した分会の取り組みが注目され、来年に向けて行こうと提起が行われた後、支部分会から春闘の取り組みの報告が行われた。

仙台駅連分会 昆野書記長

春闘期における職場要求書を作成することを執行委員会決定し、二回の集会を開催して議論をした。45名の分会で31名が参加。19項目に絞って要求書を作成し話をしたいと会社に申し入れ、機関名を入れることは出来なかったが要求

を主張し後日回答を得た。山形からの通勤者の問題、始終業時刻を変更できないか。仕事を通して話を持っていくと乗ってくる。

小牛田運輸区 大子田執行委員

それぞれの班で丁寧な議論を積み重ねてきた。班長会議、各班集会を開催する中で職場の問題点を議論することが出来てきている。継続することが大切。

山形連合分会 佐藤委員長

保線職場で要求書を提出することとし、班長を中心とした議論を展開した。会社は個人名であれば要求書を受け取るという態度。内容は冬期問題から設備、環境問題、安全教育、要員配転問題、制度に関

わるものな膨大な要求項目とあり、機関としてはないかという渡した。ほんの一部ではあるが改善された部分もある。

貨物宮城分会 岩井班長

執行委員会は定例で月2回、その中で全組合員集会を決定。力を入れたのは他労組からの要求署名の集約。分会総括としては分会で決めたいことを全組合員で実行出来たこと、食費申請、ジャンボ分キ門前ラン配布、組合旗掲揚他。結果は7年連のエアゼロ再検討再回答を求め各役員一体となって抗議集会を開催してきた。総して近年にならぬ取り組みをする事が出来たのではないかと

五月一七日、新幹線総合車両センター構内において、仙台電力技術センター所属の社員（国労組合員1名含む）が入換用気動車に汽笛吹鳴を受けける事象が発生した。10時30分頃、当該社員らは3名

幹線で待避誤り発生

体制で設備調査（わたり線箇所）のハンガーの向き確認のため同構内に到着。信号扱所に連絡員を配置して作業責任者他1名が作業着手した。その後11時10分頃、650号ポイント付近の線路内で調査中、入換のため庫3番から

組替え1番線へ移動中の気動車に背後から汽笛吹鳴を受け、作業箇所15m手前で気動車は停止した。仙台支社設備部の情報によれば、原因は「輸送当直から庫3から組1への入換えありと連絡員は言われ

ている。しかし列車見張員とされている作業員（国労）は当日作業責任者から見張員の指定ではなく作業員として指示を受けており、支社の情報と食い違っている。また連絡員は数年ぶりの連絡員作業であり十分な訓練・教育がなされていたのか等不明な点も一部組合員から指摘されている。設備部では「見張員が見張をしていない」として本人の責任に転嫁しようとしているが、一方でこれまで十分な保安体制を確立しないままに現場作業をすることを黙認してきた仙台電力技術センターの安全に対する姿勢が問われることになる。

仙総支部 庄司委員長

分会運動の活性化と外注化提案の見直しを柱にすえて支部として闘争委員会を立ち上げ春闘を取り組んだ 各分会の取り組みは要求書を会社に持って行ったり口頭要請した職場など様々。出しっぱなしではなくその内容を報告し合っている。組織拡大については1名であるが、しかしそれでも9年掛かっている。直ぐに結果が出るものではなく、粘り強く運動を続けていくことが大切。

全体討論では

仙台病院分会 大友委員長

DLR基金に昇進差別の和解放金の一部を充当しても良かったのでは 大同団結の流れの中で佐藤昭一氏の組織内候補決定は喜ばしかったが、推薦そして取り消しは残念。

福島県支部 吉田書記長

総行動はこれまでにない点検と行動であった 今春闘に対するアンケートを取組み職場の声を集約、組合員の求心力が落ちていると感じた これをバネにオルグを考えている 申し入れた職場は少なかったが仕事を通じて話をしていく。

郡支部 橋本委員長

3月14日に春闘役員会議を持っただけに終わってしまった。取組みが十分でなかったことを反省し今後に繋げて行きたい。

仙総台車分会 渡辺委員長

意見広告について取組みが決定したが気分が盛り上がりについて

ない。唐突であり、チラシ配布の提起も全国的な取り組みとして上部機関から声掛けをすべき。

宮城県支部 秋山委員長

運動の一つの柱として職場交流を掲げてきた。施設であれば建築と保線との交流など 結果的に日程が付かず実現は出来なかったが分会全体集会是4分会で取り組まれた 駅を中心に他職場との交流が今後予定されている 支部では6分会が現場長要請行動を取り組んだ。

宮城県支部 曾我執行委員

ヘアゼロではないが六百万。旅客も抗議しなくてはならないのでは 佐藤昭一氏の件は残念だったが今後の取組みとして組合員と議員が皆で支えあっていることが大切。また公開質問状が出ているが対応を。和解金を直接個人に渡すのは止めて欲しい。組織でやったこと 和解の流れで運転士復帰の裁判が止まっているがどうなっているのか 職場要求が社員の声だけで収まってしまうと提案で出せなくなってしまう。組合の力にならないのでは危惧する。

仲間の異動

地域間異動 復帰

- 菅野 次男氏(5月25日付)
- 西国駅 須賀川駅
- 千葉 義明氏(5月27日付)
- 市川駅 仙台車両セ
- 吉田 博氏(6月10日付)
- 横浜駅 宮城野運輸区

不満は残るが一定の驕

昇進差別郡山工場 和解決報集集

四月一四日、郡山市内において表題の集会在開催され、郡工支部組合員のほか、弁護士をはじめとした労働委員会闘争を支えてきた多くの支援者が駆けつけた。

冒頭挨拶に立った橋本守弘委員長は「充分とは言えない和解内容ではあるが、一定の評価も出来るため決断した。長い闘争を続けてこれたのも仲間の皆さんの力添えのおかげである」とお礼を述べると共に和解に至る経過を説明した。

続いて青木弁護士が郡工事件の経過を報告した上で和解後も現場の差別は変わっていないという声も認識している。現場管理者に浸透するまで時間がかかるし困難はある。大切なことは和解をきっかけに国労が発展し、JRの最大労組になることを期して筋を通して闘うことだ」とこの和解は長い闘いの中の一里塚であると確認し、今後

も我々と共に歩むと述べた。地方本部を代表して大沼書記長は「国労でも試験は合格することになった。組織拡大の足枷は取り払われたのだから、国労加入を呼び掛けよう」と

組織拡大の取組を要請した。懇親会では各共闘の仲間から挨拶をもらつと共に、今後の差別を許さない闘いと組織拡大を誓い合った。

最では平労主権で

一方宮城県においては仙総支部が昇進差別事件を闘ってきたが、二月十日に塩釜平和労働会議の主催で和解報告集会在開催した。

庄司委員長は挨拶の中で「組合員はもとより共闘の方々の支援があったからこそ今日まで闘い続けられた」とこれまでの支援に対するお礼を述べて苦労を労った。また国労弁護団としてこの



問題に関わつた佐藤弁護士からは「ターニングポイントは修善寺大会でありこの闘いは単なる不当労働行為は正ではなく人権・人間の尊厳を守る闘いだ」としてこの間の経過と意義が述べられた。また「不当労働行為が本当になくなるのは今後の問

題である」と今後の経過を慎重に見守るべきであるとしながらも和解交渉の受け止め方は様々。しかし国労は残った。この意義は大きいとして、不当差別に潰されることなく国労が存在し続けていることの意味の大きさをあらためて訴えた。

地域間異動者激励行動

5月27日(土)地域間異動者激励会が東京地本会議室において異動者、激励者総勢27名が参加し開催された。当日は佐藤正彦氏(東十条駅)の司会で開会し、異動者を代表して鈴木幸春



氏(大久保駅)が激励会開催のお礼の挨拶を述べた。受け入れ先地方本部である東京地本から笹原書記長、千葉地本から小林書記長よりそれぞれ来賓としての挨拶を受け、また地方本部からは中島副委員長が激励の挨拶を述べた。続いて福島県支部から田口委員長、宮城県支部からは曾我執行委員がそれぞれの支部の状況や近況を報告した。また異動者全員が自身の近況と心境、職場環境などそれぞれの思いを語った。場所を移した懇親交流では久しぶりの再開を果たした仲間同士で会話も弾み、盛況のうち散会した。参加した異動者は次の通り。庄子健一氏(豊田駅)、大友清孝氏(中野駅)、渡辺齊氏(東十条駅)、鈴木清美氏(品川駅)、駒木根孝一氏(東京駅)、佐藤正彦氏、大内直一氏(八丁堀駅)、鈴木幸春氏。